

発掘成果をふりかえって 2007

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



2007年の注目すべき発見は、西京区大原野で見つかった縄文時代晩期の竪穴住居群で、近畿では最大の規模です。また、平安宮跡では豊楽院と朝堂院の建物遺構の検出で、構造や規模を知ることができました。さらに、本能寺跡出土の焼け瓦も記憶に新しいところでしょう。

今回は、2007年の発掘調査の一部を取り上げてご紹介します。



1 上里遺跡 西京区大原野上里南ノ町ほか

2006年からの継続調査で、縄文時代晩期の竪穴住居跡8棟と土器棺墓や土壇墓などを多数発見した。住居跡の中央には炉がつくられ、石製品や赤色顔料を塗った土器片も出土した。隣接の調査区では装身具に使われたとみられるヒスイの玉や滑石の勾玉も発見。



2 西京極遺跡 右京区西院清水町

弥生時代後期の竪穴住居跡8棟が見つかった。そのうちの4棟は同じ場所に重複していて、何度も建て替えや拡張をしたようが見られた。柱穴には、底を打ち欠いた甕・壺・高杯などの土器が埋められていた。



3 長岡京右京二条三坊一・八町 西京区大原野上里南ノ町

長岡京跡北西部の調査で、長岡京期の建物跡2棟を検出した。うち1棟は3間×3間の総柱建物で倉庫跡と見られ、柱穴には直径約35cmの柱が残っていた。ほかに、南北方向の小路の東西両側溝が見つかり、西三坊坊間東小路の位置を確認した。



4 平安宮・朝堂院跡 上京区竹屋町通千本東入主税町

平安宮朝堂院にあった「昌福堂」の北端を確認した。これで朝堂院の建物規模を復元できた。昌福堂の規模は南北約33m・東西約18mで、見つかった凝灰岩の石列は基壇の延石である。



5 平安宮・豊楽院跡 中京区聚楽廻西町

平安宮豊楽院の「清暑堂」と「豊楽殿北廊」にあたる。清暑堂の南面西側の階段部分で凝灰岩の踏石と延石を発見した。北廊は豊楽殿とつながる渡り廊下で、2度にわたる拡幅が行なわれていた。



6 平安京右京六条二坊三町・六町 下京区西七条東前田町ほか

五条通の調査で平安時代前期の西堀川小路の川跡を発見した。小路の西半分を占め、10世紀初めには廃絶していた。隣接して平安時代前期の宅地を検出している。



7 平安京左京三条二坊十町・堀河院跡 中京区二条油小路町ほか

旧城巽中学校の跡地で、平安時代を代表する里内裏である堀河院の南半部にあたる。平安時代後期の広大な庭園の池跡が見つかり、土師器・須恵器・緑釉陶器・白磁のほか陶製の風字硯なども出土した。写真は池跡と景石。



8 平安京左京六条四坊三町 下京区間ノ町通五条下る大津町

万寿寺通の名前の由来となる万寿禅寺の園池跡が、発掘調査で初めて見つかった。白河天皇の六条院を継承した万寿禅寺の池は何度も作り替えられており、徐々に規模が縮小されていた。



9 本能寺跡 中京区小川通六角下る元本能寺町

本能寺の建物跡が初めて見つかった。出土瓦の多くは赤く変色し、「本能寺の変」で焼け落ちた瓦を捨てたものとする。出土した軒丸瓦の破片には「註」の字の一部が読み取れた。